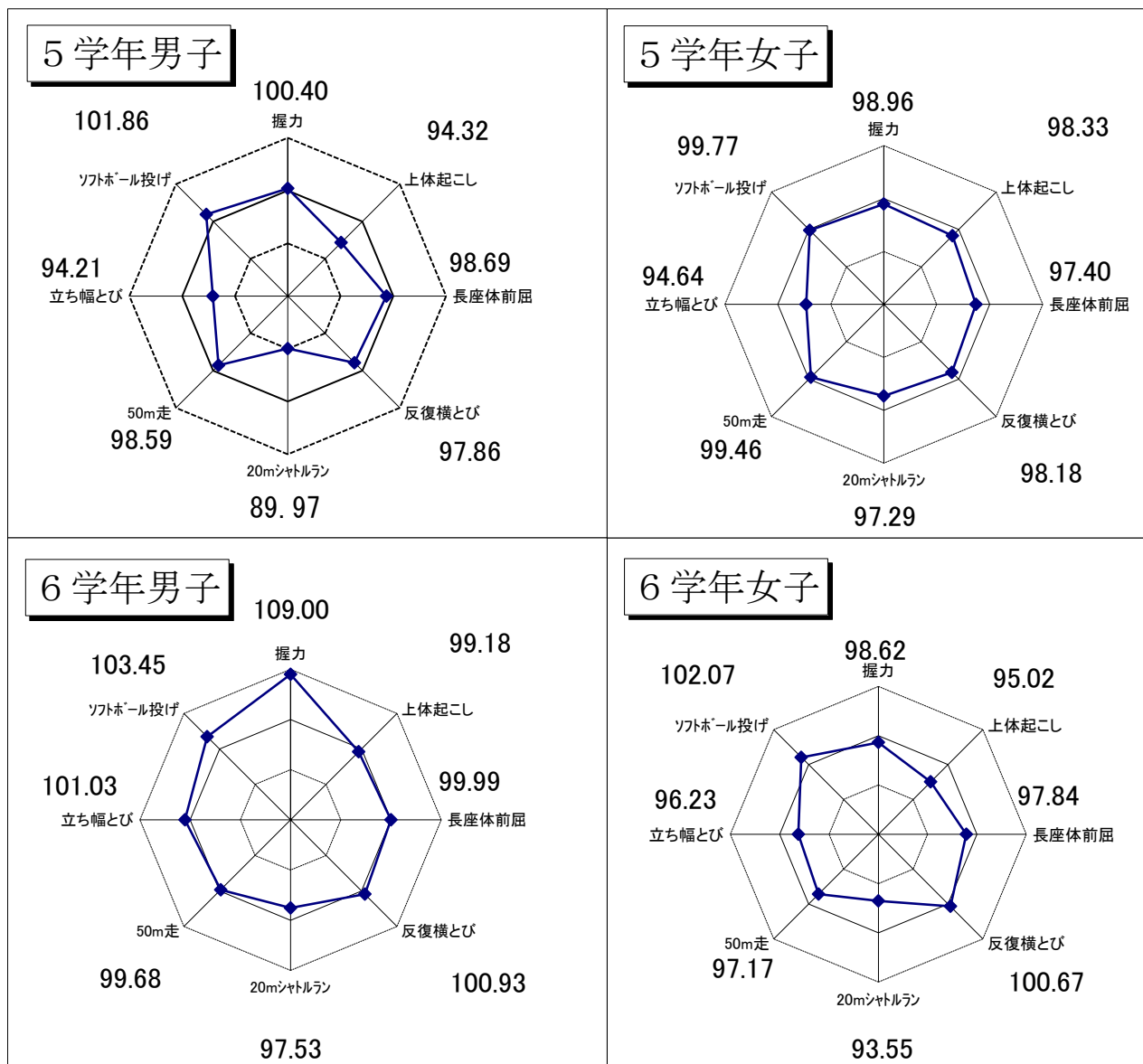


# 新体力テスト 郡平均と県平均との比較と考察

- ・グラフ中の数字は県のデータを100とした時の指数を表す。
- ・計算式は、(郡平均) ÷ (県平均) × 100である。(県平均は令和3年度)
- ・ただし、50m走については、 $200 - (郡平均) \div (県平均) \times 100$ で計算する。
- ・どの種目も指数が大きいほど能力が優れていることとなる。



※グラフの中心を80とし、1メモリ増えるごとに10ずつ加算されていく。

## 【結果と考察】

・5学年では男子が「握力」「ソフトボール投げ」が県平均を上回り、他はそれを下回る結果となりました。6学年男子は「握力」「ソフトボール投げ」「立ち幅とび」「反復横跳び」、6学年女子は「反復横跳び」「ソフトボール投げ」が県平均を上回り、他はそれを下回る結果となりました。特に「上体起こし」「20mシャトルラン」は全体的に県平均より劣っている結果となりました。

・郡平均の推移でみると、昨年に比べ32項目中(8種目×学年男女)14項目が上昇し、18項目が下降しています。特に、「上体起こし」は全体的に上昇しているが、「長座体前屈」は下降傾向が見られました。

・昨年より上昇している項目もあるが、下降している項目も多々あり、児童の体力が低下していることが分かります。特に「20mシャトルラン」や「上体起こし」など持久力の向上が郡全体の課題です。体力テストの結果をもとに、各学校で結果を分析し、児童の体力向上のために、持久力+αに取り組むことが必要です。